

## ベラルーシ公開情報とりまとめ

(6月23日～7月13日)

2018年7月17日  
在ベラルーシ大使館

### 【主な出来事】

- ロシアがベラルーシ産乳製品の禁輸措置を解除(6月22日)
- 中国との相互査証免除に関する政府間協定の批准(6月30日)
- 独立記念日の軍事パレードに中国軍部隊が初参加(7月3日)

### 内政・外交

#### 【ルカシェンコ大統領動静】

##### ●露「ズベルバンク」頭取との会談

6月27日、ルカシェンコ大統領は露「ズベルバンク」のグレフ頭取と会談し、ロシア・ルーブル建ての融資ラインの開設を通じた貿易向け融資拡大にかかる相互の措置及びロシアにおけるベラルーシ製品の販売促進の取り組み分野につき協議した。また、エネルギー分野及び産業分野の企業に対する融資につき合意がなされた。

(6月27日付プライムプレス通信)

#### 【ルカシェンコ大統領動静】

##### ●トロステネツ強制収容所の記念碑設置式典

6月29日、ルカシェンコ大統領は、ミンスク郊外にある第二次大戦時のトロステネツ強制収容所跡地における2つめの記念碑設置式典に出席した。同大統領は演説において、国際社会はまたしても憎悪を煽り、暴力を引き起こす「不寛容の悪魔」に直面しているとして、国家間でスケールの大きな新たな対話を始める必要性を強調した。同日の式典では、シュタインマイヤー独大統領とオーストリアのファン・デア・ベレン大統領が出席して挨拶した他、ポーランドのシチェルスキー大統領府長官により同国ドゥダ大統領の挨拶が代読された。

(6月29日付大統領サイト)

##### ●シュタインマイヤー独大統領との会談

6月29日、ルカシェンコ大統領は、シュタインマイヤー独大統領と会談した。ルカシェンコ大統領は、EUとの関係正常化に際してドイツが果たした貢献につき謝意を表明した。シュタインマイヤー大

統領は、過去の教訓に学んで平和を維持していくことの重要性に関するルカシェンコ大統領の発言につき、完全に同意すると述べた。

(6月29日付大統領サイト)

##### ●独立記念式典と軍事パレード

7月2日、ルカシェンコ大統領は独立記念日(3日)に寄せた演説を行なった。同大統領は、国家としての歴史はソ連邦と関わっているとし、約100年前の白ロシア・ソヴィエト社会主義共和国の誕生により、初めて法に則った形で政治的・法的な(国家としての)地位を得たのであると述べた。

3日、ルカシェンコ大統領は軍事パレードにおいて演説を行ない、本年は従来の露軍に加えて、初めて中国軍からも参加を得てパレードのフォーマットを拡大させたと強調した。

(7月2～3日付大統領サイト)

##### ●クパリエ祭に参加

7月7日、ルカシェンコ大統領は、ヴィテプスク州アレクサンドリアでのクパリエ祭の式典に参加した。同大統領は、同式典の演説において、ベラルーシ、ロシア、ウクライナ国民の結びつきは、どのような政治的な利益や目的よりも尊いと述べた。

(7月7日付大統領サイト)

### 【内政】

#### ●中国との相互査証免除に関する政府間協定の批准

6月30日、ルカシェンコ大統領は、一般旅券保持者に対する相互査証免除に関するベラルーシ・中国両国政府間協定の批准法に署名した。7月5

日、ルディ駐中国ベラルーシ大使は、中国側も批准を済ませ、同協定が本年 8 月 10 日から施行される旨述べた。

(7 月 2 日、5 日付国営ベルタ通信)

### ●統一市民党の党首選

7 月 8 日、統一市民党(野党)は 4 名の候補で党首選を行ない、ポリャコフ副党首が新党首に選出された。出馬の可能性が注目されていたカノパツカヤ下院議員は立候補しなかった。今次党首選は、2000 年から同党党首を務めていたレベチコ前党首の辞任に伴うもの。同前党首は、党から離れて今年の秋を目途に新たな活動を開始すると述べ、記者からの質問に対して同活動は政治に直接関わる形ではないと答えた。

(7 月 8 日付ベラパン通信、10 日付「国民の意思」紙)

### ●ベラルーシ語大学が準備コースを開設

ベラルーシ語を教授言語とする私立ギレヴィチ記念大学が、新学期から準備コースを開設すると発表した。開設科目は、ベラルーシ史、数学、物理、化学、ベラルーシ語、英語、独語、仏語。募集人数は各科目 10～12 名で、3 か月コースは週 2 回各 3 時間、6 か月コースは毎週土曜日 3 時間の授業を受ける。

(7 月 9 日付ベラパン通信)

### ●大使会議の開催

7 月 9 日、マケイ外務大臣は、同日開催された大使会議の訓示において、一方で保護主義が強まり、他方の貿易大国でそれへの対抗措置が講じられているという状況が現行の国際貿易システムに対する深刻な脅威になっており、国家間の対立の量と深さが小さくなりそうもない状況であると述べた。同大臣は、安穏とした環境はどこにもなく、好むと好まざるとに拘わらず世界情勢を楽観視することはできないと強調した。

(7 月 9 日付国営ベルタ通信)

## 【外政】

### ●太平洋同盟のオブザーバー資格を取得

6 月 23 日、在ベラルーシ・エクアドル大使館は、メキシコシティで開催された太平洋同盟(ラテンアメリカの経済統合を目指す組織)の会合において、セルビア、UAE、ベラルーシへのオブザーバー資格付与が承認されたと発表した。

(6 月 23 日付ベラパン通信)

### ●ベラルーシ人権問題担当国連特別報告者の活動

6 月 25 日、ベラルーシ人権問題担当ハラスティ国連特別報告者は、ジュネーヴの国連人権委員会で報告を行ない、体系化した諸問題の解決に向けた顕著な進展は見られなかったため、ベラルーシの人権状況につき国際的な監視を継続していく必要があると述べた。同特別報告者は、2012 年から報告者として活動している。同日、在ジュネーヴ・ベラルーシ代表部アムブラゼヴィチ常駐代表は、同特別報告者の報告書は政治的な動機に基づいたものであり、一面的で先入観にとらわれた文書であると非難した。

7 月 6 日、同委員会は、同特別報告者のマンドートを 1 年延長する決議を賛成 19 票、反対 6 票で採択した。同日、アムブラゼヴィチ常駐代表は、主権国家に圧力をかけることを目的としたものであるとして同決議を非難する声明を発表した。

(6 月 25 日、7 月 6 日付ベラパン通信)

### ●ポーランド議会国際委員会にベラルーシ野党関係者が参加

7 月 4 日、ポーランド議会国際委員会が、未公認政治団体「自由のために」グバレヴィチ代表、統一市民党(野党)レベチコ党首、キリスト教民主党(未公認野党)リュマシェフスキー共同代表、アニシム及びカノパツカヤ両下院議員(野党系)、未公認政治団体「共に」リャリコフ代表らベラルーシ野党関係者を招待した形で開催された。同委員会は、EU との関係を正常化させるためには、ベラルーシは弾圧行為を止め、民主的な諸基準を満たす必要があるとする決議を採択した。

(7 月 4 日付ベラパン通信)

## ●マチュシェフスキー第一副首相が「16+1」首脳会合に参加

7月6日から7日にかけて、マチュシェフスキー第一副首相は「16+1」首脳会合のためにブルガリアを訪問した。ベラルーシは、「16+1」のオブザーバー。同第一副首相は、中・東欧諸国と中国の協力の成果を示す展示会を視察し、「16+1」参加国によるビジネスフォーラムに出席した。

(7月9日付閣僚会議サイト)

## 経済

### 【国内経済】

## ●医療機器・医薬品納入を巡る汚職(続報)

### KGB ヴァクリチク委員長の発言

6月25日、国家保安委員会(KGB)ヴァクリチク委員長は、KGB が医療分野での大規模汚職を摘発した旨述べた。同委員長によれば、刑法第430条の収賄、同第431条の贈賄、同第243条の脱税の容疑で60人以上が検挙されており、保健省ロシツキ一次官、同省傘下の国営「医療保健鑑定・試験センター」のストリャロフ・センター長、同省傘下の国営「ベラルーシ医療機材(ベルメドテフニカ)」シャラク社長、グロドノ州執行委員会(州庁)保健局ストリジャク局長、国防省軍医療局エシコフ局長等の高官も検挙されている他、ミンスク州臨床病院やヴィテプスク州臨床病院の院長らが刑事告発されている。同委員長は、被疑者宅の家宅捜索において数十万ドル相当の現金が発見されたことや、被疑者の海外逃亡を防ぐため早期検挙に踏み切ったこと等を指摘した上で、被疑者らは全員罪を認めて捜査に協力している旨述べた。

同委員長は、本件は医療機材や医薬品の調達に関係する役人に関わるもので、病院で診療に従事する医師に関係する事柄ではない旨付言した。

同委員長は、ルカシェンコ大統領から政府に対して薬価引き下げの指示が出ており、一方で KGB に対して薬価や医療機材の価格が引き上げられている理由につき全面的に捜査するよう指示があった旨述べた。同委員長によれば、捜査の結果、医療分野での体系的な汚職が明らかにされ、薬価や医療機材の価格は 10%~60%、場合によっては 100%も引き上げられていた。

## ジャルコ副首相(前保健大臣)の発言

6月29日、ジャルコ副首相は記者団に対し、保健分野での大規模な汚職について、2006年から2016年までの保健大臣在任時には知らなかった旨述べた。同副首相は、「当時そうした大規模汚職について知っていれば、その時に対策を講じていた。どこかで何かを感じていたら、問題を起こした人間に対して免職を含めてすぐに措置を講じてきた」と述べた。また同副首相は、医薬品・医療用品・医療機器の調達は中断しておらず、病院での治療が中断することもない旨付言した。

(6月25日、7月11日付国営ベルタ通信、6月29日、7月11日付ベラパン通信)

## ●オストロヴェツ原発を巡る動き

7月2日、欧州原子力安全規制者グループ(ENSREG)は、オストロヴェツ原発のストレステスト結果のピアレビュー報告書を承認し、4日、同報告書は公開された。

リトアニアのリンケビチュス外務大臣は、欧州連合(EU)方式に準拠して行われたストレステスト結果が、同原発の耐震性、安全機能の改善、重大事故の管理等について勧告していることから同原発は安全ではなく、こうした勧告が同原発の運転開始までに実施されなければならない旨述べた。

(7月3日付外務省サイト、ベラパン通信)

## ●電気自動車の利用促進に関する大統領令

7月10日、ルカシェンコ大統領は電気自動車の利用促進に関する大統領令第273号に署名。同大統領令では、走行許可証の発給時やベラルーシ国外で生産された充電設備の輸入等の際の免税措置につき規定されている。全国的な充電設備ネットワークの創設と開発は、国営「ベラルーシ石油」が自社プログラムに則って実施する。

(7月10日付国営ベルタ通信)

## ●東方パートナーシップ省エネルギー・環境基金による支援

7月10日、経済省マトウセヴィチ次官は、東方パートナーシップ省エネルギー・環境基金(E5P)による総額1,700万ユーロ以上の無償資金が、ベラ

ルーシでの固形ごみ処理等の省エネルギー・環境関連プロジェクトに拠出される予定である旨述べた。同次官によれば、主な出資者は欧州連合(1,000万ユーロ)、スウェーデン(500万ユーロ)、ドイツ(100万ユーロ)、ポーランド(15万ユーロ)、エストニア(6万ユーロ)、ベラルーシ(100万ユーロ)。

(7月10日付国営ベルタ通信)

### ●地球環境ファシリティによる支援

天然資源・環境保護省によれば、地球環境ファシリティ(GEF)は2018年7月から2022年にかけて、ベラルーシでのプロジェクトに860万ドルを拠出予定。重点分野は気候変動(560万ドル)、土地劣化(100万ドル)、生物多様性(200万ドル)の3分野。

(7月13日付ベラパン通信)

### 【対外経済】

#### ●露:ベラルーシ産乳製品の禁輸措置を解除

6月22日、ロシア連邦動植物衛生監督庁は、6月6日から導入されていた容量2.5リットル以上の包装がなされているベラルーシ産乳製品の一時的な禁輸措置の解除を発表。

(6月22日付ベラパン通信)

#### ●食料品の対中輸出にかかる提案を策定するための作業部会の設置

6月29日付閣僚会議決定第188号により、食料品の対中輸出にかかる提案を策定するための作業部会が設置された。同部会の代表は、農業食糧省ブルイロ次官。同部会は11月1日までに閣僚会議に対し、中国への食料品輸出増加及び品目の拡大、運輸・物流の最適化等にかかる提案を取りまとめて提出することが求められている。

(7月5日付閣僚会議サイト、ベラパン通信)

#### ●IMF ミッションのベラルーシ訪問

7月9日から13日にかけて、ミニャン団長率いる国際通貨基金(IMF)ミッションがベラルーシを訪問した。

11日、同団長は共和国院(上院)ミヤスニコヴィチ議長と会談した。同議長は、ベラルーシ当局は、

経済成長の維持、中小企業の振興、経済の持つ脆弱性の低減、社会保障システムの改善を自らの戦略的課題と捉えており、こうした分野でIMFとの協力を進展させたいと願っている旨述べた。同団長は、IMFの対ベラルーシ融資プログラムに関する交渉は行われていないものの、IMFとしてベラルーシの経済情勢を注視している旨述べた。

12日、同団長はマチュシェフスキー第一副首相はベラルーシ訪問中の国際通貨基金(IMF)ミッションのミニャン団長と会談し、マクロ経済の安定、民間部門に対する支援、国営企業の再編、中長期的な連携の優先分野につき協議した。同第一副首相は、不良債権市場の形成に対するIMFの支援に感謝するとともに、IMFとのさらなる協力拡大を希望する旨述べた。

(7月11日、12日付国営ベルタ通信、ベラパン通信、政府サイト)

### 【統計・その他】

#### ●7月1日現在の金・外貨準備高:68億3,100万ドル

国立銀行(中央銀行)は、7月1日現在のベラルーシの金・外貨準備高を68億3,100万ドルと発表。

(7月6日付国営ベルタ通信)

#### ●世界銀行による2017年のGDPの発表:544億ドル

世界銀行によれば、2017年のベラルーシの国内総生産(GDP)は544億ドルで、200か国中79位(2016年は200か国中76位)。

(7月13日付ベラパン通信)

(了)